

## 足立 崇 氏 学位審査結果の要旨

主査：中邨 智之

副査：螺良 愛郎、野村 昌作

マクロプロラクチン血症はプロラクチンと抗プロラクチン抗体の複合体が形成される原因不明の病態である。本研究では、自己免疫疾患である関節リウマチ (RA) とマクロプロラクチン血症の関連を調査した。RA 患者 238 名と同年齢層対照群との比較では、マクロプロラクチン血症の頻度は変わらないもののプロラクチン濃度は有意に高値であった。RA 患者の中でも活動性指標のひとつである MMP-3 血中濃度が高い患者群ではマクロプロラクチン血症の頻度は約 4 倍高く、プロラクチンが MMP-3 の基質となることから、MMP-3 による切断を受けてプロラクチンに対する抗体ができやすくなっている可能性が考えられた。プロラクチンの血管新生活性とプロラクチン切断物 Vasoinhibin の血管新生阻害活性が報告されているが、マクロプロラクチン血症自体が RA の病態を修飾している可能性もある。本研究は RA とマクロプロラクチン血症の関連を示した初めての研究であり、学位に値する。